

- 1 教科等名 総合的な学習の時間
- 2 単元名 自分が好き 友達が好き 町が好きな 千川の子

3 単元の目標		武蔵野市民科 資質・能力
○知識・技能の習得	・ハンセン病について正しく理解するために国立ハンセン病資料館やインターネットの情報を活用し理解を深める。 ・特別介護老人ホーム「親の家」が大切にしていることを調べ、共生社会について理解を深める。	A2
○思考力・判断力・表現力等の育成	・差別や偏見に苦しんだ人々について理解し、学校生活において自他の違いを尊重し合うために大切なことを考え、学校内外に学んだことを発信することができる。 ・調べた情報が信頼できるものかどうか、情報を取捨選択することができる。	B1
○学びに向かう力・人間性等の涵養	・差別や偏見ではなく、自他の違いを尊重し合うことができる学校や町を自分たちで実現しようとする。	C1

4 単元計画

小単元	ねらい	時数	主な学習活動・指導上の工夫	関連教科 関連団体（連絡先等）
小単元 ①	小説「あん」（ポプラ社）の読書会を行い、ハンセン病や元患者の受けた差別を知り、問題意識をもつ。	1	・ハンセン病やその元患者の経験を知り、現代社会や自分たちを取り巻く課題が存在することを知り、差別や偏見をなくすことへの課題意識を高める。 ・課題を解決する方法を考え、調査、分析の見通しを立てる。	道徳「だれもが幸せになる社会を」 小説「あん」（ポプラ社）
	調査活動を通しハンセン病や元患者のこれまでの生活について知り、自分を取り巻く社会について考える。	2	・ハンセン病や元患者のこれまでの生活について調べる ・差別や偏見が広がるきっかけについて考え、これからの社会でも同じようなことが起きないために大切なことは何か話し合う。 ・差別や偏見をなくすため「正しいことを知る」大切さを確認する。	国立ハンセン病資料館提供資料（DVD資料・パンフレット） 全生園での取材資料
	ニュースや新聞等から、ハンセン病元患者や全生園で働く人々の取り組みを調べ、まとめる。	2	・差別や偏見の改善をめざし、社会にはたらきかける人々の取り組みを調べる。 ・調べたことをもとに、学校生活や地域のためにできることを考え、情報をまとめる。	朝日新聞「藤崎美智子さん特集」（2025.12.5朝刊）
	自分たちがまとめたことを友達や学校内で発表する。	1	・差別や偏見のない社会、学校生活を実現するために、自分たちにできることは何か考え、友達に発表する。 ・これまでの学習を整理するために、学んだことをパンフレットにまとめ、校内で学んだことを共有する。	
小単元 ②	共生社会の視点から、身近な地域や学校生活に目を向け、課題設定を行う。	1	・共生社会を実現するために働く人々に目を向け、どのような働きがあるのかを調べ、自分たちにできることは何か考える。 ・本校近くに位置する特別介護老人ホーム「親の家」の方々に取材をすることを見通し立てる。	児童アンケート結果共有 本校掲示物「自分が好き 友達が好き 町が好きな千川の子」
	差別や偏見のない共生社会を実現するために働く人々の取り組みを知る。	2	・差別や偏見のない共生社会を実現するために働く人を調べる。 ・特別介護老人ホーム「親の家」の理事長、施設長から法人の理念、役割、働きを学ぶ。 ・施設見学、お年寄りの方々との交流を通し、「正しいことを知る」重要性を体験する。	特別介護老人ホーム「親の家」理事長、施設長 利用者の方々 親の家畑の歴史と推移の資料（平成20年～）
	差別や偏見のない共生社会を築くために大切なことを整理する。	2	・特別介護老人ホーム「親の家」の理事長、施設長から学んだ法人の理念、役割、働きを整理、分析し、自分たちにできることを考える。	
	「共生社会」の視点から、身近な場所や学校生活の中で取り組んでいけそうなことをまとめ、発表する	2	・差別や偏見のない共生社会について調べたことや自分の考えをスライドやパンフレットにまとめて発表する。	
小単元 ③	自分たちが学んできたことについて、ゲストスピーカーと対談する。	1	・これまで調査してきたことや学んだことを、小説「あん」（ポプラ社）の著者と対談し、新たな気づきを得る。	小説「あん」（ポプラ社）著者
	ゲストスピーカーから学んだことを整理し、町づくりに生かせそうなことを考え、話し合う。	2	・共生社会の実現をめざし、これまで学んだことを生かしながら、特別介護老人ホーム「親の家」、地域、学校の三者に一層つながりが深まるための取り組みを考える。	
	学校や地域を繋ぐための取り組みを実践する。	2	・パンフレットを作成し、自分の考えの発信と意見の交流を行う。 ・アンバサダーとしてミニのぼり旗を作成し、特別介護老人ホーム「親の家」を存在を校内や地域に正しく発信していく。	特別介護老人ホーム「親の家」理事長、施設長

合計時数 20 時間

5 単元の振り返り

成 果（児童・生徒の変容等）	課 題
①児童の主体性が向上した 地域人材、ゲストスピーカーの経験を聞くことで、現実味のある学びを実現できた。その結果、児童は「校外の人から話を聞きたい」と声をあげるようになった。 ②情報活用能力がなぜ大切か学ぶ機会となった 差別や偏見について学ぶ上で、情報を取捨選択することや正確性を問うことの大切さを学ぶことができた。情報源を意識しながら、インターネットを活用する姿勢、得た情報を正しく発信する意識の向上が見られた。	①カリキュラムマネジメント 児童の「やりたい、学びたい」という願いが増すほど、時数が足りなくなってしまう。学校外から学ぼうという児童の主体性を大切にするためにも、他教科とのカリキュラムマネジメントが必須だと感じた。 ②情報発信の場 児童が学んだことを発信する場に限りがあった。教師が地域人材や公共施設と繋がりをもち、児童が学んだことを発信できる場を知る必要があると気付いた。